

視覚情報基礎研究会

The special interest group on Foundations of Visual Information (sig-FVI)

<https://color-science.jp/vision/labnews/>

主査 堀内 隆彦 (千葉大学)

e-mail: sig-fvi-staff@mc2.osakac.ac.jp

視覚情報に関する最先端の学問や技術の学びと、若手研究者の積極的な育成

◆研究内容や研究会の構成

人間が外界から得る情報の約8割は視覚情報と言われています。それらは、外界の光情報である物理面、視覚系と神経回路に関する生理面、大脳に投影されたイメージの知覚現象に関する心理面に代表され、それぞれ相互に密接に関係しており、視覚系全体から学際的な視点で研究と評価が必要です。さらに、近年、視覚に加えて聴覚や触覚などの多感覚情報処理の解明も、重要な課題となっています。

本研究会では、これらの研究対象に対して、著名な専門家の講演を通じて最先端の学問や技術を学び、一般講演を通じて各分野の専門家と議論を深めることができます。さらに、次世代を担う若手研究者の発表セッションを設けることによって、若手研究者の積極的な育成を図っています。年間3回の定例の研究発表会には、毎回大学および企業から30～50名程度の参加者があります。2009年に研究会が発足して以来、42回の研究発表会が実施され、80件以上の招待講演と約300件の一般講演がありました。また、日本色彩学会誌において、本研究会の特集論文の発刊や、国際会議やシンポジウムの開催に協力してきました。

◆2021年度の活動報告

第41回研究発表会が9月12日(日)にオンラインで開催され、30名の参加がありました。一般講演2セッションと、蔀洋司氏(産業技術総合研究所)による招待講演がありました。蔀氏には、「光計測を支える測光標準およびCIEでの最近の話題」と題して、光計測の礎となる国家標準(測光・放射標準)について、産業技術総合研究所 計量標準総合センターで行なっている研究を紹介いただいた後に、標準白色板およびBRDF標準の現状と関連計測技術について概説いただきました。さらに、国際照明委員会(CIE)における技術活動の状況についてご説明いただきました。

第42回研究発表会が3月6日(日)にオンラインで開催され、30名の参加がありました。一般講演2セッションと、久保尋之氏(千葉大)による招待講演がありました。久保氏には、「見えないものが見えてくる、時間同期式プロジェクターカメラシステムによるコンピューショナルイメージング」と題して、光伝搬を選択的に観測・解析し、隠された潜在的な映像を可視化できる次世代イメージング技術について、その原理から応用に至るまで、ご紹介いただきました。またデモを交えながら、分野外の研究会員にもわかりやすく説明いただきました。一般講演では、初めて海外からの発表がありました。

また、秋の研究会旬間に、色彩科学系5研究会合同研究発表会として参加し、他研究会を交えた議論・交流が実施されました。



コロナ禍前の研究発表会の様子
(国際シンポジウムより)

◆2022年度の活動計画

今年度も9月と3月に、研究発表会の開催を計画しています。オンラインによる開催計画を立てていますが、新型コロナウイルス感染の収束の見込みが得られた場合には、対面による発表会の実施を予定しています。研究発表会は、招待講演、一般講演、企業製品紹介、総合討論によって構成予定であり、研究会会員であれば、どなたでも一般講演・聴講の申し込みをすることができます。講演の開催については、会員専用のメーリングリストを通じて行いますので、是非上記連絡先より会員登録をお願いします。発表会の一般発表は、事前にエントリー原稿の閲読を行い、閲読者からのフィードバックに基づいて発表をお願いしています。一般講演の発表時間は20分です。本研究会は、若手研究者の積極的な育成を目指しており、学部生や高専生などは、発表時間が15分のフレッシュマンセッションで発表することが可能です。

また、今年度も秋の研究会大会に、色彩科学系の合同研究発表会として参加を予定しています。関連研究会の発表の聴講や討議のチャンスです。積極的にご参加ください。